

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-232399

(P2006-232399A)

(43) 公開日 平成18年9月7日(2006.9.7)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 81/36 (2006.01)	B 6 5 D 81/36 X	3 B 1 1 5
A 4 7 G 21/04 (2006.01)	A 4 7 G 21/04 Z	3 E 0 6 7
B 6 5 D 77/00 (2006.01)	B 6 5 D 77/00 E	4 B 0 1 7
B 6 5 D 81/34 (2006.01)	B 6 5 D 81/34 G	
A 2 3 L 2/00 (2006.01)	A 2 3 L 2/00 X	

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願2005-106762 (P2005-106762)	(71) 出願人	596107394
(22) 出願日	平成17年2月22日 (2005.2.22)		広瀬 利夫
			茨城県新治郡八郷町柿岡 1 9 2 2 番地
		(71) 出願人	501003456
			生野 暁二
			茨城県下館市乙 7 9 9 番地
		(72) 発明者	広瀬 利夫
			茨城県新治郡八郷町柿岡 1 9 2 2 番地
		F ターム (参考)	3B115 AA19 BA02 DA09 DA19
			3E067 AB23 AB24 AB26 AB27 AB28
			AC01 AC03 BA33A BC05A BC07A
			CA07 CA08 CA24 EB27 EE21
			EE23 EE48 FB17 GD01 GD02
			4B017 LE10 LP18

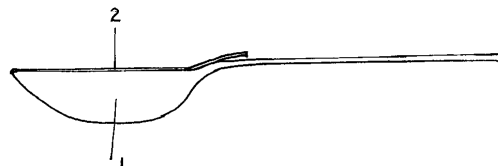
(54) 【発明の名称】 飲食物が封入されたスプーン

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡単且つ手っとり早く飲食ができる、飲料物が封入されたスプーンの提供。

【解決手段】スプーン先端の容器部分に飲食物（お茶、紅茶、コーヒーなど）を入れ、液体の透過性のあるシートで封入する。お湯の中にそのまま入れて攪拌して飲食する。又、粉末のコーヒー、茶、ジュース、調味料などスプーン容器部分に密閉封入し、飲食時にそのシートをはがしてお湯を入れたコップ中に入れ攪拌して即、飲食可能である。

【選択図】図 2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スプーンの容器部分に飲食物を入れ、液体の透過性のあるシートか又は透過性のないシートで容器のふち部分を密封する。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、好みの飲食物を簡単、かつ手取り早く飲食できるスプーンに関する。

〔背景技術〕

【0002】

従来、飲食物を取る時、例えば、お茶、紅茶、コーヒー、煎じ薬等の場合、少量ずつスプーンで、成分を溶出させる容器に入れて、お湯等を注ぎ、溶出させてから、必要なものを添加し、攪拌して飲食する。又お茶、紅茶など少量ずつパックされたものをコップに入れ、お湯を注いで飲食する。又スティック状の袋に入ったコーヒーなどをコップに入れて、お湯を注いで飲食する場合など様々であるが、いずれもお湯の中に、溶出した成分の中か又は飲食物をそのまま投入した中へ、更に、種々のものを添加し、ほとんど攪拌して飲食する。

10

〔発明の開示〕

〔発明が解決しようとする課題〕

【0003】

20

飲食物を攪拌具すなわちスプーンと合体できないか。

〔課題を解決するための手段〕

【0004】

スプーン先端の容器部分に飲食物（例えば、お茶、紅茶、コーヒーなど）を入れ、液体の透過性のあるシートで封入する。そのままお湯などの中に入れて攪拌することにより、成分が溶出し、更に添加物を入れて、攪拌するなど簡単かつ手取り早く飲食できうる。

又粉末のコーヒーや、末茶、粉末のジュースなどの飲食物をスプーン先端の容器部分にシートで密封したものを、シートをはがしてコップに入れ、お湯を注ぎ、そのスプーンで攪拌できる。いずれも簡単かつ手取り早く飲食できうる。

〔発明を実施するための最良の形態〕

30

【0005】

スプーンの先端の容器部分（１）に、お茶、紅茶、コーヒー、煎じ薬などを一定量入れて、液体に透過性のあるシート（２）（温度に耐えられ清潔なものを使用）をスプーンの容器部分のふち（３）に接着する。例えばプラスチックのスプーンであればシートを熱で接着する。

飲食物内蔵のスプーンをお湯の中に入れると、中の成分が溶出してくる。さらにスプーンで攪拌しながら添加物を入れて混ぜ合せ飲食する。簡単かつ手取り早く飲食することができる。

【0006】

固体の飲食物（粉末のコーヒー、茶、ジュース、みそ汁、即席めんの調味料など）、液体の飲食物、ペースト状の飲食物などをスプーン先端の容器部分に入れ透過性のないシート（２）容器部分のふち（３）を熱で密閉する。

40

飲食物を、スプーンのシートの取手（４）部分からはがして、お湯の中に入れ、スプーンで攪拌して、即飲食可能である。

【0007】

スプーンの先端がフォーク状になっている場合、容器部分に調味料や具を入れてシートで密閉する。飲食時にシートをはがして、内容物を入れ、お湯などを入れて、即席めんも簡単、手取り早く飲食できる。

〔産業上の利用可能性〕

【0008】

50

スプーンの容器部分（１）への飲食物の封入は比較的容易に製作可能である。好みの飲食物を簡単に手取り早く飲食することができ、広範（ティータイム、食後、接客時など）なるかつ大量の利用可能性を有する。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】「スプーンの平面図」

【図２】「スプーンの正面図」

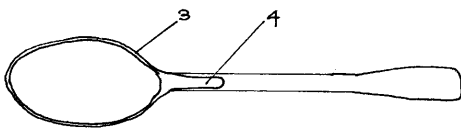
【符号の説明】

【００１０】

- １ 容器部分
- ２ シート
- ３ 容器部分のふち
- ４ シートの取手

10

【図１】



【図２】

